

## デンマーク・スウェーデンにおける水中遺跡の保護について

### 1. 目的

水中遺跡の保護に関しては先進国とされるデンマーク・スウェーデンの取り組みを視察して、日本における水中遺跡の保護のあり方についての検討に資するものとする。

### 2. 日程

- 8月9日 デンマーク バイキング博物館 (Vikingskibsmuseet)
- 8月10日 デンマーク国立博物館保存処理施設
- 8月12日 スウェーデン バーサ博物館 (The VASA Museum)
- 8月13日 スウェーデン国立海事博物館

### 3. 内容

#### 【デンマーク バイキング博物館】

- スカルデルブ海峡の防衛のために沈められた15世紀代の5隻の船を1962年に引き揚げ、保存処理を施し博物館の主要展示とする。
- 博物館の周辺には、バイキング船の復元実演、セイリング体験、各種ワークショップなどが盛んに行われ、家族連れの来館者で賑わっている。また、レストランも完備。
- 水中遺跡は周知の包蔵地が約2,000か所あり、年間約20件の記録保存の発掘調査を行っている。
- EU加盟国は1992年のバレッタ条約により、原因者負担制度が定着している。発掘調査は5つの博物館と民間の探査会社が実施。

#### 【スウェーデン バーサ博物館】

- 1628年の処女航海で沈没した王室軍艦のバーサ号を1961年にそのまま引き揚げ、保存処理を行い展示している博物館。船体の遺存率は96%。
- PEGを噴霧して保存処理を行い、1990年に博物館が開館。館内の湿度を52%に維持している。年間120万人の来館者の出入りにより湿度維持が難しく、出入口を三重扉にするなどの工夫を凝らす。
- 木材の酸化、鉄の錆化、湿度管理などで、現在も問題が多く保存処理が継続中。「スウェーデンにとってバーサ号はもう沈没船を引き揚げないことの象徴」とのこと。